

科目名	クラウド概論						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	クラウドの特性・仮想化技術の概要を学び、システムの導入・設計手法などの考え方を体系的に学習する。そして、構築と運用管理手順が実際にできるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					クラウド技術に必要な用語について意味が説明できる	
	○					仮想化技術とは何かを説明できる	
		○	○			クラウドの設定、運用管理ができる	
テキスト・教材 参考図書	CompTIA Cloud+テキスト(TAC出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	クラウドの概要(クラウドとは何か・クラウドサービスモデル)				身の回りのクラウドサービスについて調べ、まとめる	
	3-4	クラウドの概要(実装モデル・クラウド技術と標準化動向)					
	5-6	仮想化技術(概要・実装)					
	7-8	仮想化技術(仮想化マシン・仮想化H/W・仮想マシンの利用)					
	9-10	仮想化技術(ハイパーバイザーの管理とマイグレーション)					
	11-12	ストレージ技術(種類と特徴・接続方法)				ストレージ技術について調べる	
	13-14	ストレージ技術(RAID・ボリュームパーティション・NAS)					
	15-16	ストレージ技術(ファイバーチャネルSAN・IP-SAN)					
	17-18	ストレージ技術(仮想化技術とストレージ技術)					
	19-20	クラウドの導入と設計(設計・構築・バックアップシステム)					
	21	クラウド演習(EC2、VPC)					
	22	クラウド演習(EBS、IAM)					
	23	クラウド演習(RDS、ELB)				EC2、VPC、EBS、IAM、RDS、ELBについてまとめる	
	24	クラウド演習(Web App Deploy、Highly Available)					
	25	クラウド演習(Lambda、CloudFormation)					
	26	クラウド演習(CloudFront、Serverless Architecture)					
	27	クラウド演習(Route53、Enhance Web App)				Lambda、CloudFormation、CloudFront、Route53についてまとめる	
	28	クラウド演習(最終複合課題)					
	評価方法	(1)授業の中で章ごとの確認テストを実施する(全5回)。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	○				50%
確認テスト		○	○	○			40%
出席状況・授業態度					○		10%
履修上の注意							

科目名	高度ネットワーク I A					
科目名(英)						
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	北原 聡	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース2年					
授業概要	レイヤ2及びレイヤ3スイッチを使用した企業ネットワークの設計・構築と運用管理が出来るようになる					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				スイッチドネットワークの設計ができる
		○	○			スイッチドネットワークの構築ができる
		○	○			スイッチドネットワークの運用管理ができる
テキスト・教材 参考図書	CISCO CCNP SWITCH教科書(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ネットワークにおけるスイッチの役割			CCNA R&Sのイーサネットの箇所を復習すること	
	2-3	スイッチの基本操作、イーサネットの仕組み			CCNA R&SのVLANの箇所を復習すること	
	4-6	VLANとトランクの実装				
	7-8	VTPの実装				
	9-10	イーサネットリンクの集約				
	11-12	DHCPの実装			CCNA R&SのSTPの箇所を復習すること	
	13-15	IEEE802.1D STPの実装				
	16-17	RSTPの実装				
	18-19	PVST+、PVRST+の実装				
	20-21	MSTPの実装				
	22-26	Cisco STP Toolkitによる保護				
	27-28	UDLD、FlexLinkの実装				
	29-30	外部ルータによるVLAN間ルーティング			CCNA R&Sのルーティングの箇所を復習すること	
	31-33	マルチレイヤースwitchの機能、SVI、ルーテッドポート				
	34-37	マルチレイヤースwitchによるネットワーク構築				
	38-39	レイヤ3ポートの集約			CCNA R&Sのネットワーク管理の箇所を復習すること	
	40-41	管理プロトコルの実装 NTP、SNMP、				
	42-43	IP SLAの実装				
	44-45	SPANによるネットワーク管理				
	46	スイッチの仮想化				
	47-48	IP標準プロトコルによるファーストホップの冗長化			CCNA R&SのHSRPの箇所を復習すること	
	49-52	HSRPの実装				
	53-56	VRRPの実装				
	57-58	GLBPの実装				
	59-60	IPv6標準のファーストホップ冗長化				

	61-62	IPv6用HSRPの実装	CCNA R&Sのセキュリティの箇所を復習すること				
	63	エンタープライズネットワークのセキュリティ					
	64-65	MACアドレス攻撃と防御					
	66-67	ストーム制御とAAAの実装					
	68	スプーフィング攻撃と防御					
	69	プライベートVLANの実装					
	70	シミュレータによる実技テスト					
評価方法	(1)授業の中でオンラインテストを10回実施する。(2)実技テストを実施する。(3)出席状況・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンラインテスト		◎				30%
	実技テスト		◎	○			40%
	出席状況・授業態度				◎		30%
履修上の注意							

科目名	高度ネットワークⅡA					
科目名(英)						
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	打越 直美	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科 アドバンスコース 3年					
授業概要	高度なIPアドレッシングとルーティングを使用してシスコ ルータをネットワークに接続、管理するための方法を体系的に学習する。					
授業形式	講義	○	演習: △	実習:	実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				効率の良いIPアドレッシングの設計ができる
		○				様々なルーティングプロトコルの違いが説明できる
		○	○			適切なルーティングプロトコルを使ったネットワークの構築ができる
		○	○			ネットワークのトラブルシュート、運用ができる
テキスト・教材 参考図書	Cisco CCNP ROUTE教科書(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	IPアドレッシングとルーティングの基本、復習			CCNA R&Sのアドレッシングについて復習しておくこと	
	2	EIGRP(概要、動作)			CCNA R&SのEIGRPについて復習しておくこと	
	3-4	EIGRP(基本設定、検証)				
	5-6	EIGRP(オプション設定)				
	7	EIGRP(WANテクノロジーへの導入)				
	8-9	EIGRP(認証、スケーラビリティ)				
	9-10	EIGRP(名前つきEIGRP)			EIGRPの特徴をまとめること	
	11	OSPF(概要、動作)			CCNA R&SのOSPFについて復習しておくこと	
	12	OSPF(基本設定)				
	13	OSPF(検証、OSPFネットワークタイプ)				
	14-15	OSPF(マルチエリアOSPFとLSAタイプ)				
	16-17	OSPF(オプション設定、特別なOSPFエリアの実装)				
	18	OSPF(認証、OSPFv3)				
	19-20	ルート再配布とルート制御(ルート再配布)			CCNA R&Sの再配布について復習しておくこと	
	21-22	ルート再配布とルート制御(ルートフィルタリング)				
	23-24	ルート再配布とルート制御(ADによるルート制御)				
	25	ルート再配布とルート制御(CEF)				
	26-27	ルート再配布とルート制御(PBR)				
	28-29	ルート再配布とルート制御(IP SLA)				
	30-31	BGP(概要、動作)			CCNA R&SのBGPについて復習しておくこと	
	32-33	BGP(基本設定)				
	34-35	BGP(BGP検証)				
	36-37	BGP(設定の考慮事項)				
	38-39	BGP(ルート集約)				
40-41	BGP(ルート選択)					

	42-43	BGP(BGPポリシーベースルーティング)					
	44-45	IPv6(概要、アドレス)					CCNA R&SのIPv6について復習しておくこと
	46-47	IPv6(アドレスの割り当て)					
	48-49	IPv6(主要なプロトコル)					
	50-51	IPv6(設定と検証)					
	52-53	IPv6(IPv6ルーティング、IPv6ルーティングの設定)					
	54-55	IPv6(IPv6への移行技術)					
	56-57	インターネット接続(ブランチからのインターネット接続)					CCNA R&Sのセキュリティについて復習しておくこと
	58-59	インターネット接続(VPNの概要)					
	60-61	インターネット接続(暗号化アルゴリズムとハッシュ関数の基礎)					
	62-63	インターネット接続(IPsec VPNの設定)					
	64-65	インターネット接続(GRE over IPsec)					
	66-67	インターネット接続(DMVPN)					
	68	ネットワーク管理(SNMP)					
	69	ネットワーク管理(NetFlow)					
	70	シミュレータによる実技テスト					
評価方法	(1)授業の中でオンラインテストを9回実施する。(2)実技テストを実施する。(3)出席状況・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンラインテスト		◎				30%
	実技テスト		◎	○			40%
	出席状況・授業態度				◎		30%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク応用技術							
科目名(英)								
単位数	3単位		時間数	56時間		担当者	久保山 大地	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年							
授業概要	近年、携帯電話の普及に加え、M2M、IoTの導入に伴いモバイルシステムの重要度が日に日に増している。そのモバイルシステムを構成する技術、サービスに関する基礎知識を講義を通して学習する。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					モバイルシステムのサービスに関する基本用語が説明できる		
	○	○				モバイルシステムのネットワークに関する基本用語、仕組みが説明できる		
	○	○				モバイルシステムのハードウェア・ソフトウェアに関する基本用語、仕組みが説明できる		
	○					モバイルシステムのコンテンツ・セキュリティ・法律に関する基本用語が説明できる		
テキスト・教材 参考図書	モバイル基礎テキスト第6版(RIC)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1-2	スマートフォンの概要(つながる仕組み、歴史、電話番号の仕組み)						
	3-6	サービスと機能(通話、テレビ電話、メール、SNS、アプリ、FeliCa/NFC)						
	7-9	通信・通話の仕組み(セルラー方式、ハンドオーバー、多重化)						
	10-11	通信・通話の仕組み(3G/4G、FMC、ローミング)					通信多重化方式に関するレポート作成	
	12-14	モバイル機器の構造(スマートフォン、タブレット、スマートスピーカー)						
	15-16	モバイル機器の構造(ディスプレイ、UI、カメラ、メモリカード)						
	17-18	OSとソフトウェア(ソフトウェアの構成、OS、アプリの動作の仕組み)						
	19	OSとソフトウェア(代表的なアプリ、文字入力の仕組み、ファイル形式)					モバイル端末OSに関するレポート作成	
	20-21	コンテンツ(ブラウジング型、ダウンロード型、災害用伝言板)						
	22-23	セキュリティ(リスク、機能・サービス、迷惑メール、フィルタリング)						
	24-26	法制度(通信業界の法律、消費者保護法、セキュリティ関連法)						
	27-28	最新サービス(IoT、5G、プラットフォーム、クラウド)					IoT、5Gに関するレポート作成	
	評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
定期試験(筆記)		◎	○				70%	
レポート			◎		○		30%	
履修上の注意								

科目名	技術文書						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	技術文書は、他人に情報を伝えるためのツールの一つである。技術文書の質は、作成者の技術レベルの高さを証明することになる。読み手に伝わりやすい技術文書とはどのようなものかを考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				技術文書とは何か、役割や目的を説明することができる	
	○	○				ポイントをおさえた技術文書を作成することができる	
テキスト・教材 参考図書	文章力の基本の基本(日本実業出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	技術文書とは何か(種類や目的)				企業で使われる技術文書の種類を探す	
	2	技術文書を書くためのルールを知る					
	3	正しい日本語表現の重要性を知る					
	4	文書作成 文の基本形を作る					
	5	文書作成 簡潔に書く					
	6	文書作成 分かりやすく書く					
	7	文書作成 的確に書く					
	8	文書作成 共感を得る					
	9	文書作成 話し言葉の影響を避ける				技術文書を作成するために必要なポイントについて調べる	
	10	技術文書のルールを決める					
	11	テーマに沿った技術文書作成①					
	12	発表、フィードバック①					
	13	テーマに沿った技術文書作成②					
14	発表、フィードバック②						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する(全4回)。(2)レポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				40%
	小テスト	○	○				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	サーバセキュリティ演習						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	インターネットで使用されることが多いLinuxサーバにおいて、セキュリティの導入は必須である。Linuxを使用したセキュアなネットワークサーバの導入、設定、運用、トラブルシューティングに必要な技術を講義と演習を通して学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				セキュアなLinuxのインストールおよび初期設定ができる	
	○	○				Linuxのユーザ管理に必要なコマンドを使用できる	
	○	○				スーパーサーバの仕組みを理解し、スーパーサーバを使用したサービスを構築できる	
	○	○				ネットワーク監視のコマンドやサービスを理解し、使用できる	
	○	○				DNS、Web、メール、ファイルサーバをセキュアに構築できる	
テキスト・教材 参考図書	Linuxサーバセキュリティ徹底入門(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	インストール、ネットワークの初期設定				Linuxユーザ管理について復習しておくこと	
	4-6	ユーザ管理(ユーザ管理、パスワード管理、sudo)				セキュアなLinuxのインストール方法についてレポートを作成	
	7-9	スーパーサーバ(xinetd、TCP Wrapper)					
	11-12	スーパーサーバ(ipsvd)					
	13-15	ネットワーク監視(tcpdump、ngrep)					
	16-18	ネットワーク監視(Zabbix)				BINDの設定について復習しておくこと	
	19-21	サーバセキュリティ(BINDインストール、マスタ・スレーブサーバ構築)				Zabbixの構築方法についてレポートを作成	
	22-24	サーバセキュリティ(TSIGゾーン転送、BINDバージョン隠蔽)				Apacheの設定について復習しておくこと	
	25-27	サーバセキュリティ(Apacheインストール、アクセス制限)					
	28-30	サーバセキュリティ(CGIの禁止、ユーザ領域公開、認証、SSL、プロキシ)				Postfix、Dovecotの設定について復習しておくこと	
	31-33	サーバセキュリティ(Postfixインストール、ドメイン指定、リレーの許可・禁止)					
	34-36	サーバセキュリティ(エイリアス、認証、暗号化)				Vsftpdの設定について復習しておくこと	
	37-39	サーバセキュリティ(vsftpdインストール、vsftpdユーザ制限)					
40-42	サーバセキュリティ(IPアドレス・ユーザ・ディレクトリ制限、仮想ユーザ)				構築したサービスから一つ選択し、セキュアな構築方法についてレポートを作成		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				70%
	レポート		◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	卒業研究A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	卒業研究の企画立案、企画書作成、企画プレゼンテーションを行う。作成した企画書を基に、後期の卒業研究Bにて開発や研究を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				企画の手順と発想手法を活用した発想グループワークができる。	
		○				企画に含まれる技術要素の調査を行い、実現可能性を検討することができる。	
		○				企画書を作成することができる。	
				○		企画のプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	卒業研究について概要説明 テーマ発表					
	2	企画書作成					
	3	企画書作成					
	4	企画書作成				レビューを受ける準備をすること	
	5	中間レビュー1				中間レビュー1の指摘をレポートにまとめること	
	6	チーム・テーマ決定、企画書修正					
	7	企画書修正					
	8	中間レビュー2				中間レビュー2の指摘をレポートにまとめること	
	9	企画書修正					
	10	企画書修正					
	11	企画プレゼンテーション準備					
	12	企画プレゼンテーション準備				企画プレゼンテーションの準備をすること	
	13	企画プレゼンテーション					
	14	企画書修正、提出					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)プレゼンテーションによる評価会を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		◎				20%
	発表・作品		◎		○		60%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	徳島欽子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスにおいて、スムーズに仕事をするためには、相手を尊重する気持ち・思いやりが大切である。ビジネス実務のなかでも、ビジネスの基本マナーができるのを目標としている。言葉使い(敬語)目標と仕事の進め方(PDCA)をマスターすること。名詞交換・電話応対・接客応対については、演習を行う。また、新聞やインターネットにより、経済・ニュースに興味をもたせ意見を発表できるようにする。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ビジネスの言葉使いができる。	
	○	○				ビジネス文書の書き方・慶事・弔事・マナーを実践できる。	
			○			名刺交換・挨拶の仕方を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	ビジネスマナー基本テキスト キャリア総研(日本能率協会マネージメントセンター)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ビジネスマナーの基本(第一印象について)				第1章p3~p15までを読み、ビジネスマナーの基本を理解しておくこと。	
	2	CSとビジネスマナーの言葉使い				第1章p16~p20までを読み、CSのことを理解しておくこと。	
	3	敬語の使い方と好ましいお辞儀の仕方				第1章p21~p28理解度チェックまでしておくこと。	
	4	目標と仕事の進め方(PDCA)				第2章p30~p33を読み、PDCAについて理解しておくこと。	
	5	PDCAを使って、目標を立てる					
	6	社内のビジネスマナーとルール				第2章p34~p47まで読み、出社から勤務時間外の付き合い方を理解しておくこと。	
	7	指示・命令の受け方と会議に出席する時の心構え				第2章P48~p64理解度チェックまでしておくこと。	
	8	電話のマナーと電話応対				第3章p66~p79まで読み、電話応対の仕方を理解しておくこと。	
	9	電話のマナーと電話応対				第3章p82~p83理解度チェックまでしておくこと。	
	10	接客応対のマナーと名刺交換				第4章p86~108まで読み、接客のマナーを理解しておくこと。	
	11	接客応対のマナーと名刺交換				第4章p113~p114理解度チェックまでしておくこと。	
	12	面会予約の取り方と理解度チェック					
	13	ビジネス文書の基本マナー(封筒・葉書きの書き方)				第5章p116~p133まで読み、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。	
	14	慶事・弔事・贈答・会食マナーと授業復習				第6章p140~p157まで読み、慶事・弔事・会食マナーを理解しておくこと。	
評価方法	(1)授業の中でプレゼンと演習を実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	宿題・レポート		○				10%
	発表・演習			◎			20%
	出席状況・授業態度				○		10%
履修上の注意	社会人になる心得として、ビジネスマナーの基本と、新聞・ニュース・インターネットにより世界の経済とニュースに興味を持つよう心掛ける。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	IT業界で仕事が円滑に行えるように、IT業界の構造や仕組み、新しい流れを詳しく知る						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				IT業界の特徴を説明できる	
				○		IT業界で働く心構えができる	
テキスト・教材 参考図書	世界一わかりやすいIT業界のしくみとながれ(ソシム)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IT業界の基礎知識【IT業界の基礎知識】					
	2	IT業界のサービスと顧客【IT業界のサービス】					
	3	IT業界のサービスと顧客【IT業界の顧客】					
	4	IT業界のサービスと顧客【IT業界の関係事業者】				「IT業界のサービスと顧客」の講義内容についてレポートを作成すること	
	5	IT事業者のしくみ【IT事業者の組織と部門】					
	6	IT事業者のしくみ【IT事業者の売上と利益】					
	7	IT事業者のしくみ【IT事業者の職種とキャリア】				「IT事業者のしくみ」の講義内容についてレポートを作成すること	
	8	システムの提案と要件定義【システムの提案】					
	9	システムの提案と要件定義【システムの見積り】					
	10	システムの提案と要件定義【システムの要件定義】				「システムの提案と要件定義」の講義内容についてレポートを作成すること	
	11	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい事業】					
	12	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい競合】					
	13	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい問題】				「IT業界の新しいながれ」の講義内容についてレポートを作成すること	
14	IT業界のこれから【IT業界のこれから】						
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎				60%
	出席状況				◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						